

生駒市立光明中学校 校長通信

第7号 令和5年2月15日(水)
校長 藤井 仁
奈良県生駒市小明町55番地



1年間のまとめの時期 残り少ない3学期の毎日を大切に

3学期も半ばになりました。まだまだ寒い日が続いているとはいえ、2月に入り、朝の日の出が早くなったり、日没も少し遅くなってきています。今の学級でクラスメートと過ごすことができるのも、いよいよあと少しです。1月は行く、2月は逃げる、3月は去ると表現されるように、3学期の毎日はあっという間に過ぎ去っていきます。また同時に、これまでのまとめをしていくとても大切な時期です。クラスの仲間と、今の学級で過ごせるのもあと少し。クラスの仲間と今の学級で過ごす残り少ない毎日を大切にしましょう。

- ・クラスメートとの毎日を、大切にしよう。3学期はもう少ししかない。
- ・学級のみんなのために、学年のみんなのためにできること。——今年度にはできないことを見つけよう。
- ・1学期から、自分のどんなところが成長したかな。残りの日々で、もう一步のステップアップを目指そう。
- ・Leap before you look! 見る前に、恐れずに跳んでみよう。

3学期の始業式で皆さんにお話したこと、覚えていますか

失敗を恐れないこと

うまいかななくても、だいじょうぶ — ヤマメとサクラマス

ヤマメという、本州の北の方に住む、サケ科の魚がいます。
15cmから20cmぐらいの、みなさんが手のひらを広げたぐらいの大きさの淡水魚です。
この魚は、きれいな川の岩の陰などに住みますが、生まれてしばらくすると、安全な住みやすい岩陰や餌(えさ)を取りやすい場所などをめぐって、互いに縄張り争いをします。
強いヤマメは川の良い住処(すみか)を勝ち取り、そこに住むことができます。

縄張り争いに勝てなかった、住処を失ったヤマメなどの一部は、川を下り、海まで泳いで流れていきます。そして、海で餌を取り、懸命に生きます。中には、北のオホーツク海まで泳いでいくものもいることが確認されているそうです。そして、一年後に、生まれた川に戻り、上流の生まれた場所まで、再び泳いで戻ってくるのです。

そんなヤマメは、1年間の海での暮らしで、大きく成長します。

大きいものでは70センチにもなり、こうして海にいったん降りたヤマメは、サクラマスと呼ばれています。サクラマスは、川を「遡上(そじょう)」、さかのぼって、生まれたところに戻ってきて、「産卵」、卵を産みます。生まれてからもともと川に残っていたヤマメが産む卵の数は、およそ200個ですが、海に下り、サクラマスになって再び戻ってきたヤマメは、その20倍の4,000個の卵を産みます。

私たちも、日々がんばっていても、がんばっているからこそ、一度は失敗したり、最初はうまくいかなかったりすることがあります。

しかし、ヤマメがその後、サクラマスになり、大きく成長して再びそこに戻ってくるように、みなさんの努力、がんばりは、必ずその後の自分の「糧(かて)」、成長する自分の力になることを、しっかり覚えておいてください。

わたしたちの光明中 SNAP

生駒市特別支援学級 作品展(たけまるホール)に行ってきました。
光明中の作品の迫力とていねいさが特に素晴らしかったです。



1, 2年生「やさしさ」の授業

2年生 JICA
キャリア教育講演会

どちらもしっかり取り組みましたね。

インフルエンザの感染予防を

インフルエンザの感染が、市内のいろいろな学校で広がっています。コロナ対策同様、換気、手洗いなど、基本的な感染予防を、しっかり続けてください。

道路を渡る時は、
左右を必ず確認
自転車はマナーを守ること
で、自分の安全も守ろう

